

空きの缶は「ゴミ」

それとも資源

心がけしだいでどちらにもなります

道路は

「ゴミ捨て場ではありません」

「持ち運びに便利だから」「自動販売機などから手軽に買えるから」などの理由で、ジュースやビールなどの缶入り飲料が大モテです。一年間に飲まれる数は、何と百億個。十数年前に比

べて、約十倍に膨れ上がった計算です。

確かに、手軽で、丈夫で、保存のきく缶入り飲料は、消費者にとって大きな魅力。しかしその一方で、投げ捨てられた空き



缶が、自然や町並みを汚しています。

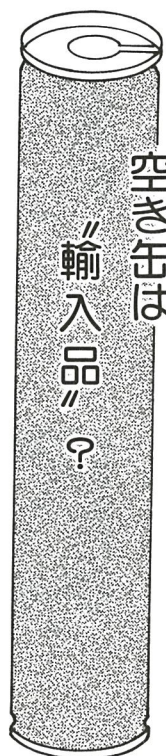
環境庁で調べた「空き缶の投げ捨て理由」を見てみると、近くにゴミ箱がなかったから(43%)、自動車に乗っていて始末に困ったから(14.6%)、ゴミ箱や家まで持ち運びが面倒だったから(11.9%)などが多く挙げられています。

このような理由で投げ捨てられた空き缶は、地域の住民やボランティアの人たちの手によって一つ一つ拾われます。拾われた空き缶は、環境庁の調査で分かっているものだけで、一年間に四億四千万個、実際はこれよりはるかに多い数字になるはず。しかし、いくら拾っても、次から次へと捨てていく人が後を断たず、どうにもならない、といった声も強くなっています。

煩わす……。この言葉をもう一度かみしめてみてはいかがですか。

空き缶は

「輸入品」?



新鮮な空気と「緑」を求めて、山に求めています。あなたは乾いた「のど」を潤そうと、缶ジュースを一気に飲み干しました。

片手には空き缶、周りを見渡してもゴミ箱はありません。さて、あなたはその空き缶をどうしますか。その場に捨ててしまおう? それともゴミ箱のある所まで持ち帰る?

空き缶が単なるゴミとなるか、あるいは資源として再利用されるかは、あなたの選択によって決まります。

空き缶の原料となるのは鉄とアルミ、言うまでもなく、海外から輸入している「貴重な資源」です。

回収されたアルミ缶は、再びアルミ缶となってみなさんの前に姿を現わします。

一方、スチール(鉄)缶は、電炉工場で鉄筋や鉄板となって、ビルや船に新しく生まれ変わります。このように空き缶は貴重な資源……。うまく再利用すれ

ば、資源やエネルギーを大幅に節約できます。

ゴミにするもしないもあなた次第……。 「使い捨て」という言葉にまどわされることなく、空き缶は必ず決められた場所に捨てるようにしましょう。

町内のあちこちでも、空き缶のポイ捨てが目立ちます。

私たち一人ひとりの心掛けて、美しい環境ができるのではないのでしょうか。お互いに気を付けたいものです。

今月の星座

